

## 第5章 コミュニティビジネス・モデル事業実施と報告会の開催

### 1 コミュニティビジネス・モデル事業の取組み

区では、平成16年度、区内におけるコミュニティビジネスの推進を図るため、区内の団体等から事業プランを公募した。公募により集まったプランの中から、練馬区のコミュニティビジネスとしてふさわしいと思われるものを選定し、事業プランの実現に必要な経費の一部支援することでコミュニティビジネスの推進を図ることとしている。

#### (1) 実施概要

モデル事業には、平成16年8月下旬から1か月間の募集期間で区内の8つの団体から事業プランの応募があった。事業プランは、商店会・学生のグループ・NPOから提出され、区内の様々な団体がコミュニティビジネスに対して関心を持っていることがわかった。

提出された事業プランを10月下旬に有識者、区の担当部署のメンバーにより構成される選定委員会で審査し、平成16年度は5事業(団体)をモデル事業として選定した。

#### (「平成16年度コミュニティビジネス・モデル事業募集要項」)

補助対象	所在地を練馬区内に置き、練馬区内を活動地域として、新たなコミュニティビジネスを実施しようとする下記の団体 商店会およびその連合会 町会・自治会およびその連合会 NPO法人や任意団体、ボランティアグループ等民間活動団体 事業を実施するため、5人以上の区民・区内事業者により組織される団体 区内にある大学等に在籍する5人以上の学生により組織される団体 その他、区長が適当と認める団体
募集期間	平成16年8月21日(土)～9月20日(月)
補助金額	上限額は50万円(補助率1/2) ただし『補助対象』の に掲げた団体は2/3
補助対象経費	広告宣伝費(ただし、新聞掲載費・ホームページの作成費などは対象外) 印刷費 使用料および賃借料 物品購入費(補助対象経費の3分の2までを対象とする) 報償費(職員・従業員の給料などは対象外)
募集事業数	4団体程度(申請額等により変動)
事業選定	書類審査を通過した事業について、選定委員会(有識者、区担当部署のメンバーにより構成)で事業内容のプレゼンテーションを受けた後に採点し、高得点の上位事業を選定する。
選定委員会	平成16年10月20日(水) 9:00～12:00
応募事業数	8事業(団体)
選定事業数	5事業(団体)

## (2) 補助金交付団体事業概要

平成16年度のコミュニティビジネス・モデル事業として選定された5事業(団体)の事業概要は以下のようになっている。今年度の事業成果を踏まえ、今後更なる展開に向けた活動が望まれる。

大泉学園町商店会(大泉学園町にある商店会)
地域振興のための地元に伝わる商品開発事業
地域で昔から言い伝えられてきた「朝まんじゅう、昼うどん」という風習を現代風にアレンジして、住民のコミュニティ意識の向上を図りつつ、ビジネスとしての可能性を探る。 まずは、商店会と同じ区域内にある町会関係者(地域のお母さんたち)と連携して、住民のアイデア等を生かした大泉学園町ならではのまんじゅうづくりに取り組む。 16年度は、17年3月13日の「第4回練馬アニメフェスティバル in 大泉」に「大泉学園町商店会」として出店した。大泉の野菜、新潟県川口町のコシヒカリもち米で作ったおこわまんじゅう:「学園朝饅」は大好評で、600個を完売した。今後は地域のイベントに合わせて販売を行う一方、各個店でブランド化に向けて創作・販売の予定。 またブランド化については、『学園朝饅』に続く商品の開発を検討している。

おとり様商店会コミュニティビジネス研究会(練馬駅南口にある商店会有志)
商店街活性化のための空き店舗活用特産品店運営事業
商店街にある空き店舗の有効活用と、近隣の福祉団体(生活支援センターきらら)との共生を図るために、空き店舗に地域特産品ショップを設ける。 商店街の研究会は、販売コーディネート・販売スペースの改装・広告宣伝・販売員の接客教育を行う。販売を担当する福祉団体に対しては、就業・社会経験の機会が提供されるということだけではなく、売上げなどに応じた報酬が支払われることになっている。 16年度は、二の酉(11/14)・三の酉(11/26)に十割そば粉を使ったすいとん販売を行い、両日とも完売した。今後、継続して取り組む事業(地域ポータルサイトの運営など)を検討していく。

武蔵大学ゆうゆうロード活性隊(武蔵大学経済学部学生有志)
商店街サポート活動事業
商店街のイベントなどに対して、通常の利用者ではない客層を誘致することにより商店街の活性化を図るとともに、商店街と学生との協働のあり方を探る。 子どもや家族一緒に来てもらうため、楽しく懐かしい企画を複数用意してイベントに出店し、商店街への親近感が湧くようにする。 16年度は、11月27日に栄町本通り商店街振興組合の江古田ナイトバザールに出店した。6チームが擬似会社形式をとって売上げを競うことにより、イベントを元気付ける取り組みを行った。 今後、同様の企画を継続して実施できるための仕組みづくりを検討する。

ねりまプラット立ち上げプロジェクト(NPO活動を通じて知り合った有志)
地域住民のための情報利活用能力普及事業
<p>高齢者の方がパソコンを活用するためには、継続的に学ぶ機会を提供することが効果的であるとのコンセプトにより、気軽に相談に行くことができる場所や、または出張してサポートを行うための拠点をつくる。そのために地域でサポート活動ができる人材の育成やネットワーク化を図ることを目指す。</p> <p>16年度は、17年2月から3月にかけて第1回シニア情報生活アドバイザー養成講座(全6回)を開講し、地域におけるアドバイザー育成の取り組みを行った。第2回シニア情報生活アドバイザー養成講座は、4月から5月にかけて実施する。</p>

特定非営利活動法人 日本ライフアシスト協会(16年8月都知事認証団体)
障害者・高齢者移送サービスと交流事業
<p>福祉・介護輸送サービスの提供や交流事業により、障害者・高齢者への生活支援を行う。谷原出張所管内を対象地域として会員を募集し、障害者・高齢者移送サービスを行う。また、会員と地域住民とのスポーツなどを通じ、交流促進を図る。</p> <p>16年度は、主に団体PR活動が中心であり、メインとなる移送事業については、練馬区福祉有償運送運営協議会で申請内容が認められた後に、速やかな事業開始ができるように準備中である。</p>

## 2 コミュニティビジネス・モデル事業報告会

練馬区におけるコミュニティビジネスの展開に向けて、区民に対してその内容を周知するとともに、平成16年度に公募により選定されたモデル事業の取り組みを報告することを目的として、「コミュニティビジネス・モデル事業報告会」を開催した。

武蔵大学を会場にして開催したモデル事業報告会は、コミュニティビジネス研究の第一人者である細内信孝氏による基調講演、山口県で子育て支援施設を運営している株式会社プティットの宇多川きよ美氏による女性起業家からの事例発表、モデル事業の中から3つの事例(「おとり様商店会コミュニティビジネス研究会」、「武蔵大学ゆうゆうロード活性隊」、「ねりまプラット立ち上げプロジェクト」)の報告を行った。

### 日時、場所、主催、後援

日時	平成17年3月26日(土) 14:00~17:00
場所	武蔵大学江古田キャンパス内 第二小講堂
主催	練馬区コミュニティビジネス研究会、武蔵大学コミュニティビジネス研究会、練馬区
後援	東京商工会議所練馬支部、社団法人練馬産業連合会、練馬区商店街連合会

プログラム

14:00 ~ 14:05	開会挨拶 練馬区産業経済部長	
14:05 ~ 15:05	基調講演 「コミュニティ・ビジネスで地域を元気にしよう」 コミュニティビジネス総合研究所所長 細内 信孝 氏	
15:05 ~ 15:10	休 憩	
15:10 ~ 15:55	事例発表 「コミュニティ・ビジネスの現場から - 女性起業家の挑戦 - 」 株式会社プティット代表取締役社長 宇多川 きよ美 氏	
15:55 ~ 16:00	休 憩	
16:00 ~ 16:45	モデル事業報告	  
	<p>おとり様商店会 コミュニティビジネス研究会 清水 利明 氏</p> <p>武蔵大学ゆうゆうロード 活性隊 村田 隆 氏</p> <p>ねりまプラット 立ち上げプロジェクト 倉田 達郎 氏</p>	
16:45 ~ 17:00	全体講評 練馬区コミュニティビジネス研究会座長 高橋 徳行 (武蔵大学経済学部経営学科 教授)	